

みらいふ。 ビジネスレポート

7月号

July
2019年



日本人は信仰心の薄い民族だと言われてますが、四季折々の行事や数年、数十年周期で繋いでいく祭りや慣習などを思うと、決してそうではないと思われそうです。

その信仰の対象になるものでは、神社とお寺が代表的ですが、数では神社が圧倒的です。日本の神社は全国に8万以上あるとも言われ、日本人の物心両面を支えているのは間違いないでしょう。神様は個々の日本人、家族だけでなく、会社とも関わりが深いものです。事業所の一角に神棚を祀っている企業も日本全国には少なくありません。

なかには自社で神社を祀っているところもあります。大都市に林立するビルの屋上をふと見上げると、神社の赤い鳥居が目に入ってくることもあります。こうした神社は企業神社と呼ばれ、多くの企業に存在しています。大企業ともなると自社で敷地を用意し、自社専用神社を建立しているところもあります。

たとえば日本を代表する企業トヨタ自動車もその1社です。同社ではトヨタ神社と呼ばれる「豊興神社」を本社工場の一角に祀っています。毎年年頭にはトヨタ自動車とグループ企業の首脳・幹部が集まり、神主が祝詞を奏上するなか、首脳・幹部一同が、トヨタグループの繁栄と安全を祈っています。

ほかにもたとえば、醤油で知られるキッコーマンには、「琴平神社」という大きな企業神社があり、毎年11月9日と10日に社長が祭主となってお祭りが催され、境内では併せて菊まつり、盆栽祭りなども行

さらに詳しい内容を無料情報誌（A4版10P）としてメールにてお届けします

下記申込みフォームにてご記入しFAXにてご送信いただくか、下記アドレスよりビジネスレポート申込みと記入の上ご送信ください。

e-mail : news@k-milife.co.jp

F A X : 0 7 5 - 8 6 3 - 0 8 0 9

会社名 :	部署 :	お名前 :
住所 :		Tel :
E-mail :		Fax :

* ご登録いただいた個人情報、弊社サービスの提供・案内及び今後役に立てるため使用しその目的以外に使用することはありません。

株式会社みらいふ

ファイナンシャルプランナー 梅田 道明

〒615-0885

京都市右京区西京極午塚町30

Tel : 075-863-0808 Fax : 075-863-0809

E-mail : news@k-milife.co.jp

URL : http://www.k-milife.co.jp

やっぱり必要?! 令和の時代に考えたい 日本の企業はなぜ企業神社を持つのか

われ、市民の楽しみの一つとまでなっています。歴史ある企業神社らしく、琴平神社は、神社本庁の傘下となっており、12年に一度は式年大祭が盛大に催されます。

企業神社で比較的多いのは「〇〇稲荷」という稲荷神社で、とくに小売やメーカー、サービス業に多いようです。マルちゃんで知られる東洋水産もその1つ。1961年（昭和36年）に商売繁盛を祈念し、「幸稲荷神社」を分霊し祀っています。その経緯がユニーク。マルちゃんと言えばカップ麺の「赤いきつね」と「緑のたぬき」で知られていますが、マルちゃんを世に知らしめたのがたぬきそばだったことから、タヌキもキツネも同類だということで、稲荷神社としたとのこと。

企業はどんな理由で企業神社を祀るのでしょうか。そこに人智を超えた経営のエッセンスがあるのでしょうか。令和という新しい元号を迎えた日本で、企業神社と企業の関係について考えてみます。

プラスα 豆知識

- ① 荒行で金毘羅宮から分霊し琴平神社を祀ったキッコーマン
- ② ダムと神社は欠かせない…北陸電力の神社
- ③ 神社ではなぜ「願って」はいけないのか
今回の記事でお伝えしきれなかった豆知識。ぜひ小冊子（A4判7枚）にてご確認ください。

いますぐ
ご返信下さい